

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2024年9月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% がDI値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要> ※中小企業の景況調査報告書(全国連・冊子)の産業全体より抜粋

全産業のDIは採算DIに小幅な改善が見られるものの、それ以外の全てが悪化。当期の業況を製造業・建設業・小売業・サービス業の4分野で見ると、売上額については全ての分野で前回から低下している一方で、採算は製造業を除く3分野、資金繰りは小売業のみで前回からの改善が見られた。

経営上の問題点としては、今回もコスト面を1番の問題としてあげる経営者が多数を占める。製造業の「原材料価格の上昇」31.7%、建設業「材料価格の上昇」34.8%、小売業「仕入単価の上昇」27.7%、サービス業「材料等仕入単価の上昇」33.1%は全体の3割前後の経営者が指摘しているが、今回はいずれもその割合がやや低下していた。一方で、特に製造業、建設業では人件費の増加や単価の低下・上昇難を指摘する経営者の割合が増えており、コストに関連する問題は引き続き深刻であることがわかる。

今回の調査結果では、小幅ながら売上額と資金繰りが前回より悪化しており、なお中小企業の景況には不透明さが続いていることが示された。最新の日銀短観(2024年9月)の調査結果をみても、中小企業の業況判断DIは、特に非製造業において「先行き」の見通しが悪化している。人手不足、物価上昇、金利上昇の懸念などを背景に中小企業の見通しは慎重になっており、今後の景況にも引き続き注意が必要である。

<地域別>

【全国】 ※小規模企業景気動向調査(全国連・データ・1枚ものの数値に対してコメント)

2024年7-9月期の全産業の業況判断DIは、▲10.5(前月差0.5pt増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断DIは、▲14.2(前月差0.7pt減)となり、前月から悪化した。

建設業の業況判断DIは、▲7.2(前月差2.5pt増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断DIは、▲17.1(前月差0.4pt減)となり、前月から悪化した。

サービス業の業況判断DIは、▲3.3(前月差1.0pt増)となり、前月から改善した。

売上額DIが小幅に上昇。一方で全産業において、あらゆるコスト高による停滞感について言及するコメントが継続して多くあり、改善傾向にあるとはいえない状況である。

【兵庫県】 ※兵庫県の経済・雇用情勢(県WEBサイト)のコメントを記入

企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

倒産件数は、このところ増勢が鈍化している。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲32.7 となり、全国 DI(▲10.5)、兵庫県 DI(▲18.0)と比較すると、最も低い。

売上高は、▲22.4 であり、全国DI(4.7)、兵庫県DI(▲8.2)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲40.8 で、全国DI(▲15.6)、兵庫県DI(▲22.4)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲32.7 で全国 DI(▲14.0)・兵庫県 DI(▲13.9)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

・仕入値が上がっている事に伴い、メニュー価格を上げようかと悩むが踏み切れない(美容室)

(商業 小売、卸売等)

・新札対応の自動販売機への対応が、費用負担等の面からも困難である(小売業)

・価格転嫁をすると客足が遠のくことから対応が厳しいため、資金繰りが厳しい(小売業)

・連休や祭礼等により売上は良いが、提供の値段は据置で仕入れ値が倍以上となっているものもあるため、非常に厳しい状況である(飲食店)

・メニューの価格は据え置いているが、仕入れ値、光熱費など値上がりが大きく採算が取れない(飲食店)

・コロナ禍よりは回復傾向にある。固定客が一定数いるため売上の安定につながっている(飲食店)

・電子決済やクレジットカード決済が80%を超えるため、資金繰りが苦しい時がある(衣料品販売)

(建設業)

・人手不足である中で、今後の建築基準法の改正により確認申請が増えることで工期が延びる見込み
そのため、資金繰りが厳しくなることが想定される(建築業)

(製造業)

・単価の見直しを含めて、利益率を上げるように交渉している(金属加工業)

・同業他社が高齢化等の原因で減少しているため、増産要請があるものの人手不足の影響は大きい
そのためその対応に苦慮している。(食品製造業)

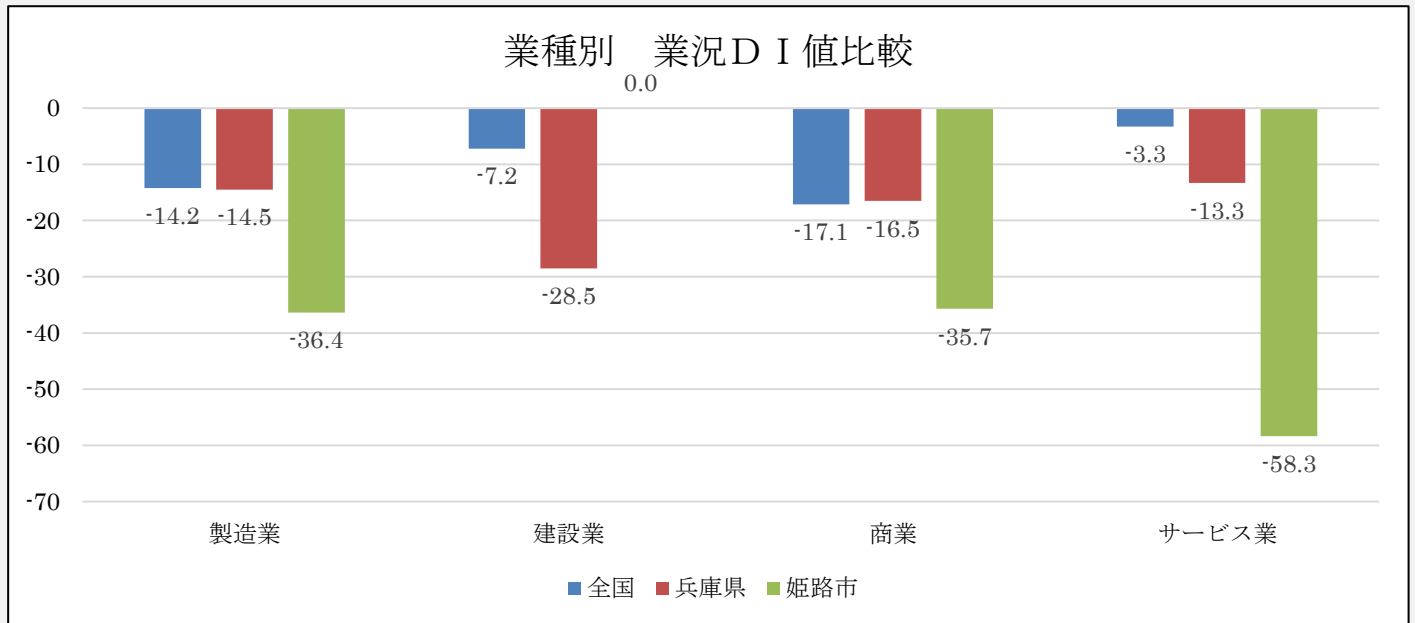
<業種別業況> ※小規模企業景気動向調査(全国連・データ・1枚もの)「産業全体」を記載

全国的な産業全体の景況は、売上額 DI が小幅に上昇した。インバウンドおよび国内需要の回復の影響を受けたサービス業、公共工事を中心に需要が堅調な建設業がけん引したことが、前月比マイナスの DI がなかった主要因としてあげられる。一方で、全産業において、あらゆるコスト高による停滞感についてコメントが継続して多くあり、改善傾向にあるとは言い難い状況である。

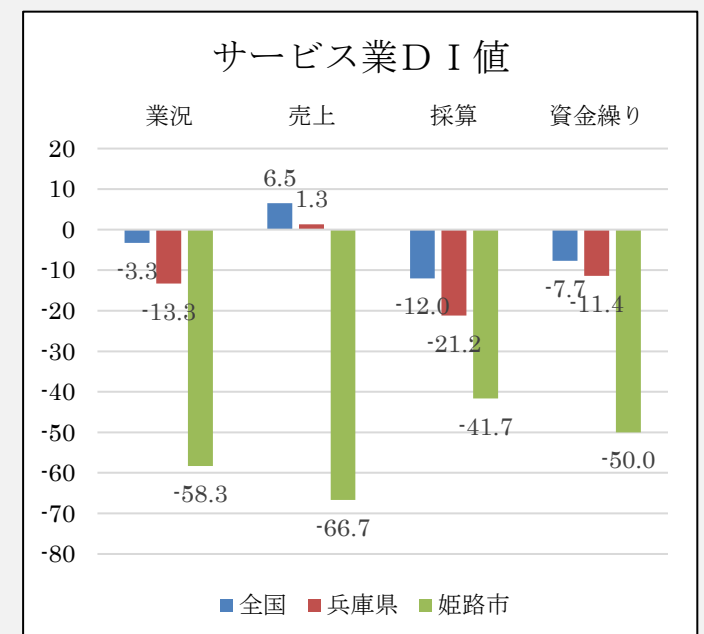
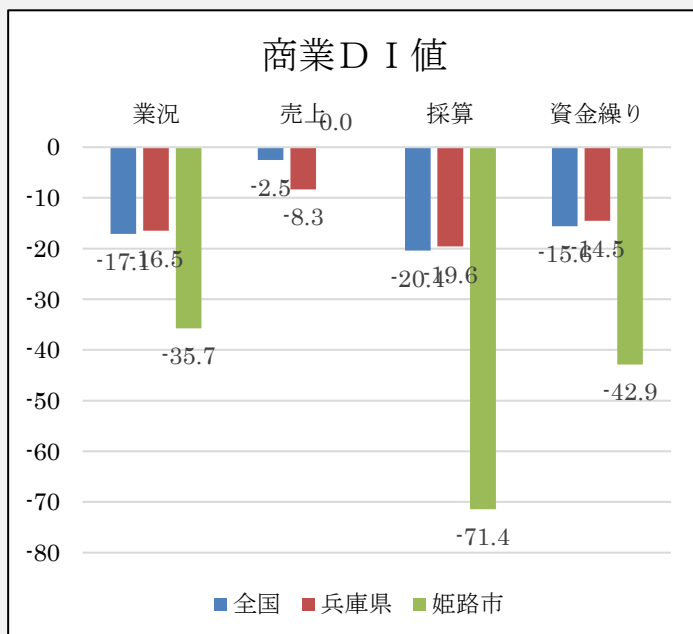
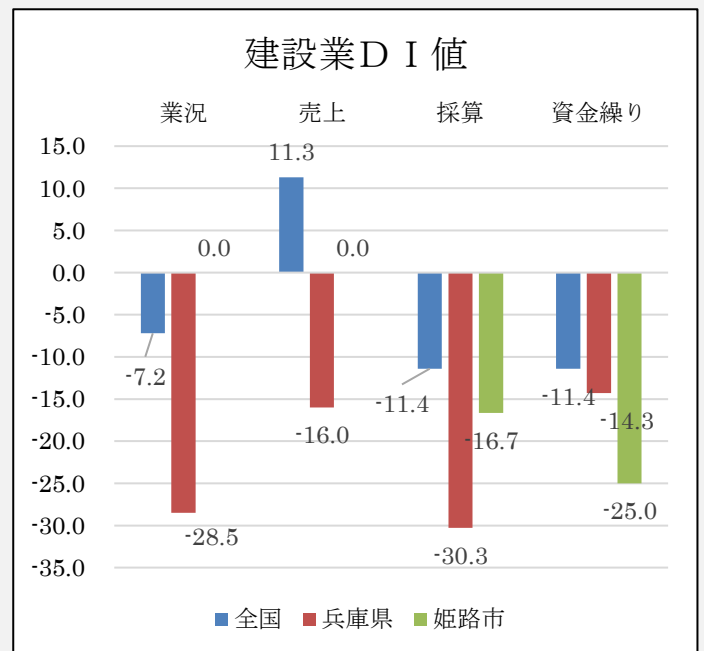
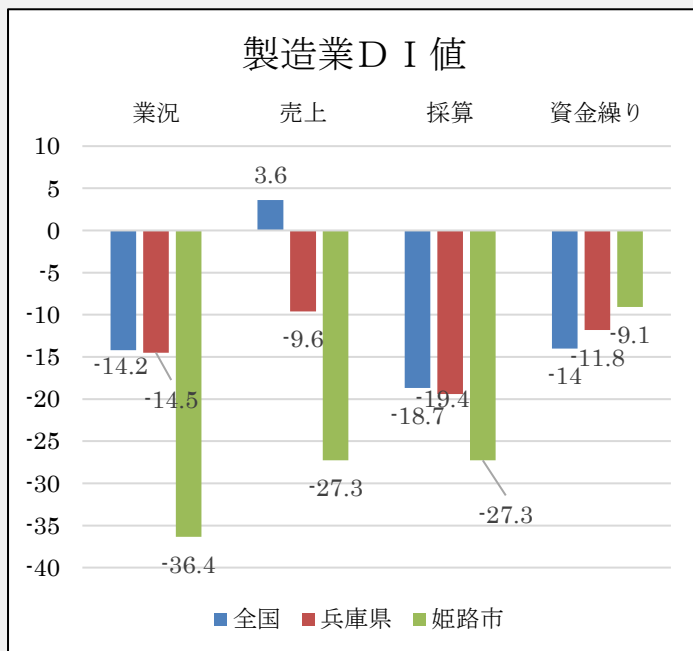
<総括コメント> ※月例経済報告(内閣府・基調判断「当該月分コメント」記入

国内景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

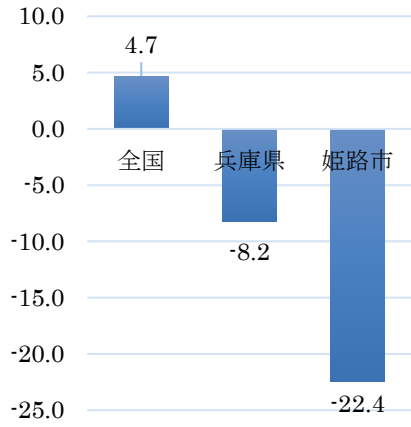
業種別 DI 比較グラフ



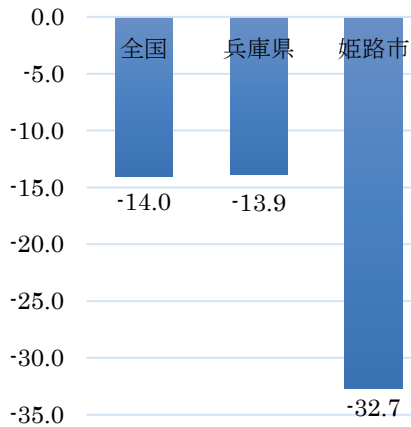
全業種 DI 比較



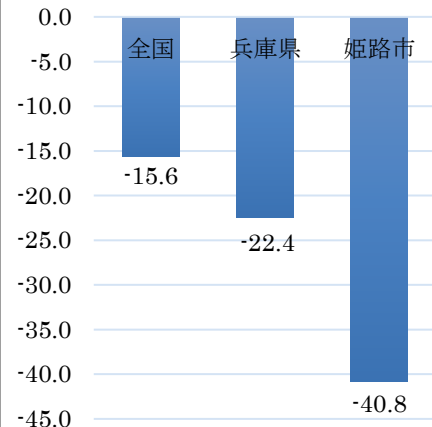
売上DI値



資金繰りDI値



採算DI値

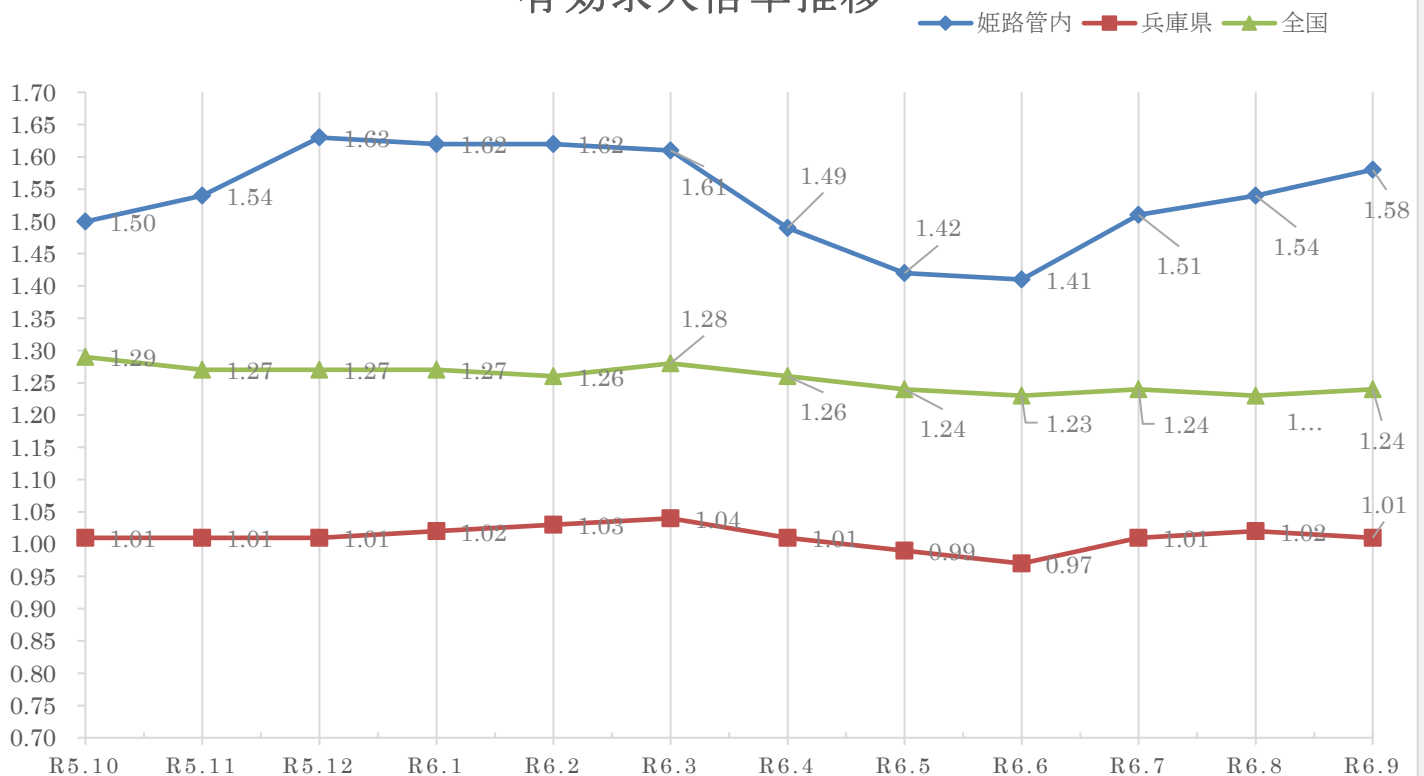


管内の雇用情勢 ※灰塗りは独自コメント、黄塗りは神戸経済ニュース(WEB)コメント参照

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍
 令和 6 年 9 月期の有効求人倍率は、全国 1.24 倍、兵庫県 1.01 倍、姫路管内 1.58 倍となっている。
 令和 5 年 10 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。
 姫路市は令和 6 年 3 月をピークに減少傾向であるものの、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

幅広い業種で人手不足が続いている。一方で、中国景気の悪化や仕入価格の上昇になどで採用に慎重な動きもある。兵庫労働局は、雇用情勢について情勢判断を据え置き、「持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を示した。また、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との見方も示した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較